

平成28年度
石川工業高等専門学校の課題
外部評価報告書



平成29年3月

はじめに

石川工業高等専門学校は、今をさかのぼること 51 年前、昭和 40 年 4 月に国立高等専門学校第 4 期校として設立されました。創立以来既に半世紀を超え、我が国産業界を支える 7,787 名におよぶ卒業生や 411 名の専攻科生を輩出してまいりました。この間、社会、特に産業技術の世界は当時想像もつかなかった大きな革新・変貌を遂げており、当然のことながら石川高専の置かれた環境も大きな影響を受けてまいっております。本校は、このような時代の変化に適応すべく、これまでタイムリーなカリキュラム編成や授業シラバスの変更等を重ねてまいりました。最近ではグローバル人材育成に向けた国際交流事業や、地域活性化を目ざして地元産業界との連携活動に取り組むなど、その教育システムは絶え間ない変革と進化を遂げて今日に至っております。

本校では、教育・研究の改善に資するために、平成 7 年に自己点検評価部会を設置し、点検・評価の結果を報告書『明日へ向けて』として、3 年ごとに発行しております。同時に運営諮問会議を設置し、地域の教育研究機関、行政機関、企業等の学外有識者による外部評価を毎年開催しております。

平成 16 年 4 月以降は、独立行政法人国立高等専門学校機構（高専機構）の発足とともに、他の国立高専と同様、5 年を 1 期とする中期目標・中期計画を設定して運営に当たり、平成 27 年度からはその第 3 期目を実施中であります。

外部評価としては、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」が 7 年ごとに行われており、平成 27 年度に受審しました。また、同機構による認定専攻科（平成 12 年 4 月設置、電子機械工学専攻・環境建設工学専攻）を対象とした審査は、平成 17 年度に続いて平成 24 年度に受審し、引き続き「適」と認められました。さらに、本科専攻科は平成 26 年 5 月に「学位授与に係る特例の適用認定」を申請し、認定を受けました。これまで同機構が行っていた「小論文試験」が省略され、一定の条件を満たすことにより学士（工学）の学位が授与されることになりました。一方、JABEE（日本技術者教育認定機構）対応教育プログラムとしては、本科 4 年生から専攻科までの 4 年間で構成される「創造工学プログラム」を平成 17 年度に設定し、平成 22 年度に続いて平成 28 年度更に 6 年間の継続が認定されました。

これらの数年ごとに実施される外部評価に対して、運営諮問会議による外部評価は、地域の事情に精通されている有識者の方々から評価をいただくもので、毎年実施されております。ほぼ各県に 1 校ずつ設置されている国立高専は、産学連携や技術者人材輩出等の地域貢献が重要な使命の一つであり、運営諮問会議は地域の様々なニーズを踏まえた御意見をお伺いできる貴重な会議と認識しております。

このような状況下で、このたび地域の学外有識者の方々に本校の現状を知っていただき、本校の教育活動、研究活動、社会活動、管理運営等について、忌憚のない御指摘と御意見を願うために、去る平成 29 年 3 月 3 日に運営諮問会議を開催しました。

本報告書は各委員からの評価をそのままの形でまとめてあります。学校の目的や学生支援・研究体制及び研究支援等で非常に良い評価をいただいている一方で、施設・設備や国際社会との交流等に関しては厳しい評価をいただきました。厳しい評価内容については逐次分析し、それらに対応した改革を積極的に遂行することが、本校に課せられた重要な使命であり、それがまた評価していただいた委員の方々の労に報いることでもあると考えております。

最後になりましたが、運営諮問会議の方々には、御多用な中、多大な労に心から深く感謝申し上げますと共に、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月 24 日

石川工業高等専門学校
校長 須田 義昭

目次

はじめに

I	これまでの経過	1
II	外部評価（運営諮問会議）	
	1 石川工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	2
	2 平成 28 年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要	3
	3 外部評価シート	10
III	運営諮問会議の意見の要約（講評）	
	運営諮問会議議長 上杉 喜彦	15
	運営諮問会議実施の公表	16
	おわりに	17

I これまでの経過

第1回運営協議会（平成16年3月開催）

第2回運営協議会（平成17年3月開催）

第3回運営協議会（平成18年3月開催）

第4回運営協議会（平成20年3月開催）

平成20年度運営諮問会議（平成21年3月開催）

平成21年度第1回運営諮問会議（平成21年11月開催）

平成21年度第2回運営諮問会議（平成22年3月開催）

平成22年度運営諮問会議（平成23年3月開催）

平成23年度運営諮問会議（平成24年3月開催）

平成24年度運営諮問会議（平成25年2月開催）

平成25年度運営諮問会議（平成26年2月開催）

平成26年度運営諮問会議（平成27年2月開催）

平成27年度運営諮問会議（平成28年2月開催）

平成28年度運営諮問会議（平成29年3月開催）

Ⅱ 外部評価（運営諮問会議）

1 石川工業高等専門学校運営諮問会議 委員名簿

金沢大学大学院自然科学研究科長 上 杉 喜 彦

公益財団法人

石川県産業創出支援機構 副理事長 斉 藤 直

石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長
(福島印刷株式会社 取締役社長) 下 畠 学

石川県中学校長会会長
(白山市立 松任中学校長) 田 村 敏 和

石川県商工労働部長 普 赤 清 幸

北陸先端科学技術大学院大学
理事（教育担当）・副学長 松 澤 照 男

津幡町長 矢 田 富 郎

石川工業高等専門学校 同窓会会長 米 田 稔

(五十音順)

2 平成 28 年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要

1. 日 時 平成 29 年 3 月 3 日 (金) 13:30~16:30

2. 場 所 石川工業高等専門学校 管理棟 2 階 大会議室

3. 出席者

・運営諮問会議委員

上 杉 喜 彦 (金沢大学大学院自然科学研究科長)

斉 藤 直 (公益財団法人石川県産業創出支援機構 副理事長)

下 島 学 (石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長
(福島印刷株式会社 取締役社長))

田 村 敏 和 (石川県中学校長会会長 (白山市立 松任中学校長))

松 澤 照 男 (北陸先端科学技術大学院大学 理事 (教育担当)・副学長)

米 田 稔 (石川工業高等専門学校 同窓会会長)

・学校側出席者

校 長	須 田 義 昭
副校長 (管理運営担当), 技術教育支援センター長	西 澤 辰 男
副校長 (地域・国際連携担当)	瀬 戸 悟
校長補佐 (教務主事)	八 田 潔
校長補佐 (学生主事)	川 原 繁 樹
校長補佐 (寮務主事)	山 田 健 二
校長補佐 (図書情報主事, 図書館長)	鈴 木 康 文
専攻科長	金 寺 登
校長補佐 (入試広報担当)	竹 下 哲 義
点検評価委員会委員長	深 見 哲 男
一般教育科主任	北 田 耕 司
機械工学科主任	稲 田 隆 信
電気工学科主任	大 坪 茂
電子情報工学科主任	山 田 洋 士
環境都市工学科主任	富 田 充 宏
建築学科主任	小 林 勉
事務部長	村 松 薫
総務課長	伊 藤 幹 雄
学生課長	岩 崎 紀美枝

・欠席者 普赤委員, 矢田委員

・陪席者 石川県商工労働部労働企画課人材確保・定住政策推進室 石割氏

・会議写真



上杉議長



須田校長



米田委員

松澤委員



斉藤委員

下島委員

田村委員



4. 議事概要

【開 会】

総務課長から、平成 28 年度運営諮問会議の開会宣言があり、出席委員の紹介、本校出席者の紹介を行った。引き続き、配付資料の確認、日程の確認を行った。

【校長挨拶】

須田校長から、挨拶の後、当会議の議長を上杉委員（金沢大学大学院自然科学研究科長）に委嘱したい旨提案があり、了承された。また、運営諮問会議委員に対し、配付資料及び当会議の結果を踏まえた評価シートへの評価記載について、協力依頼があった。

【議 事】

1. 石川工業高等専門学校の現況-外部評価のための資料-の概要

標記全体説明及び資料の各章の概要について、次のとおり説明があった。

全体説明（須田校長）

I 理念・目的

第 1 章 学校の目的（西澤副校長）

II 教育活動

第 2 章 教育組織（実施体制）（西澤副校長）

第 3 章 教員及び教育支援者等（西澤副校長）

第 4 章 学生の受け入れ（竹下校長補佐）

第 5 章 教育の方法および内容（八田教務主事）

第 6 章 教育の成果（八田教務主事）

第 7 章 学生支援（八田教務主事，川原学生主事，山田健寮務主事）

第 8 章 施設・設備（西澤副校長）

第 9 章 教育の質の向上及び改善のためのシステム（深見点検評価委員長）

III 研究活動

第 10 章 研究体制と支援（瀬戸副校長）

IV 社会活動

第 11 章 地域社会との連携（瀬戸副校長）

第 12 章 国際社会との交流（瀬戸副校長）

V 広報・評価・管理運営

第 13 章 広報活動（鈴木図書情報主事）

本校からの説明後、質疑応答、意見交換が行われた。

主な質疑、意見は以下のとおり。

- （上杉委員）インターンシップを海外でも行っているようだが、その期間によっては卒業・修了に必要な単位の修得に影響が出ると思われる。どのような対応・工夫をされているのかお聞かせいただきたい。

（本校）専攻科のインターンシップは3か月と長期間であるが、これは海外、国内に関わらず、専攻科の必修科目（10単位）として設定し、実施している。また、学科のインターンシップは原則として夏季休業期間中に実施しているため、他の授業科目（単位）の修得の妨げにはならない。

- （松澤委員）4年生全員が海外研修旅行に行くというのは興味深い。事前、事後教育が重要になるかと思うが、そのあたりをもう少し詳しくお聞かせいただきたい。

（本校）現3年生つまりは次年度の4年生だが、この3月1日の特別活動の時間にパスポートの意味等について説明した。また、併せて安全面や保険のこと、現金の取扱い、事故対応等々について記載した海外渡航のハンドブックを配布し、学生に海外渡航に関する一般的な注意事項について説明した。

- （松澤委員）海外研修旅行では現地の学生との交流も重要なポイントだと思うが、どのように実施されているのか伺いたい。

（本校）前回は全ての学科で現地の大学を訪問させていただき、現地の学生との交流を行ったが、これは相手のあることなので、「必ず実施する」というルールで行っているものではない。ただし、海外学生との交流については有益であるので、できるだけ実施したいとは考えている。そのためにも今後、交流協定校の開拓に努力していきたいと考えている。また、現在タイのキングモンクット工科大学から本校が学生を短期で受け入れているが、逆に本校から海外研修旅行で同大学を訪問すれば、繋がりがより密接になり、良い効果が得られると考えている。なお、海外研修旅行の効果として、トビタテ留学ジャパンの行先でも分かるのだが、本校の学生は、他の大学生等と比較して東南アジアに対する抵抗が少ないと感じられる。これは短期間ではあるが東南アジアを体験したためと思われる。また、語学（英語）に関していえば、学生が海外の人と「交流したい」、「話したい」でも「話せない」なら「勉強しようか」と思ってくればありがたいと考えている。短期間でも海外を経験させるこの取組みは大切である。

- （米田委員）専攻科の英語力でTOEIC400点が目標というのは少々設定が低い気がする。また留年生の数だが、平成23年度が多く、その後は随分と少なくなって平成27年度には半分以下になっている。何か取組みをされたのか伺いたい。

（本校）これは、前校長の考えが大きいと思われる。以前は学習指導において、「ダメなものはダメ」と淡泊なところがあったが、それを改め、教員が「粘り強い指導」を行うようになった結果であると考えている。

(上杉委員) 英語の件だが、大学でも苦慮しているところだが、目標としてはせめて 500 点とされては如何か。

- (松澤委員) 今の若者は人の面倒を見ることを嫌う傾向があると思うが、寮生会、学生会等の指導で何か工夫をされているのか伺いたい。

(本校) 学生会だが、一時、会長を選出するとき、苦勞した時期があった。そのときに、教員から適任と思われる学生に働きかけたこともあったが上手くはいかなかった。今は学生に任せているが、本校として良かったのは、学生会の下部組織に文化祭の実行委員会である紀友祭実行委員会という組織があり、それは自分たちのやりたいことを自主的に実行する学生たちの集まりで、ある時から、その学生たちが「核」となり、学生会活動にも役員選出の段階から積極的に参加する流れができたことである。その流れが現在も受け継がれているため、学生会の活動は学生に任せ、教員は少し離れた位置から見守るという形ができています。また寮生会でも学生みんなが世話好きという訳でもないと思うが、学生が学科のバランスまで考慮して自主的に組織してくれている。

- (下畠委員) 質問ではないが、石川高専は学業と課外活動のバランスが非常に良いと感じる。

- (田村委員) 学生相談室の利用のことだが、学生の精神面をケアする専門スタッフが存在するのか、また外部との連携もされているのか伺いたい。

(本校) 常駐ではないが 3 名のカウンセラーがいる。学生は教員には言いづらいことでもカウンセラーなら相談できることがある。連携ということでは、カウンセラーから学校にある学生に関して病院受診を提案されることがあった。それを受けて保護者と相談し、通院させることになったが、その結果、当該学生が落ち着きを取り戻し、成績アップにつながった例がある。

- (下畠委員) 図書の貸し出し冊数が平成 18 年度から 10 年間で半減している。原因分析はされているのか。

(本校) 本質ではないが、数字の低下という点では統計の上で英語の多読図書が流行った時期は、貸し出し冊数が多くなっており、そのブームが去った後はそれに伴い、貸し出し冊数が大きく減じたものと考えられる。またネットの影響も大きいと思われる。

- (上杉委員) 「長岡技科大・高専図書館統合システム」で長岡技科大と全高専図書館の蔵書が一括検索できるとのことだが、これは電子ジャーナルも含まれているのか。

(本校) 含まれている。電子ジャーナルについては、高額で大学でも苦慮していることは聞いている。

- (松澤委員) 大学では制約があるので、電子ジャーナルを他大学と共同で利用するシステムはない。

- (松澤委員) 図書の貸し出し冊数が減少している件だが、図書等購入にあたり、学生の意見を取り入れているか伺いたい。

(本校) 学生の意見も取り入れて、一定の新規図書購入を行っている。また、DVD 等も学生

の意見を聞いて購入している。なお、図書等の購入にあたっては、学生のみならず、教員の推薦図書購入という形で教員の意見も反映させている。

- (松澤委員) 今年度から演習室の端末を iMac に更新したとのことだが、どのようなセキュリティー対策をしているのか、情報セキュリティーに関し、学生にどのような指導を行っているのか伺いたい。

(本校) セキュリティー対策の件だが、演習室の端末は基本的に学内で閉じたネットワークになっている。なお、学生への指導については、1 年生から全学科でコンピュータリテラシー等の授業により基本的な部分は指導している。

- (松澤委員) 科研費の申請率、採択率ともに素晴らしいと思う。さらに、公開講座や出前授業といった地域貢献活動も活発であるが、特定の教員に業務が集中するようなことがないか伺いたい。

(本校) 確かに社会貢献は特定の教員に集中する傾向があるので改めたいと思っている。なお、科研費については、専門学科の教員のみならず、一般科の教員と技術職員の申請率・採択率が高いのが本校の特徴である。

- (斎藤委員) 科研費だけでなく共同研究も活発に行われている。

(本校) これは、本校のコーディネーターの役割が大きい。

【まとめ】

(上杉議長)

教育・研究・地域貢献など全てにおいて活動されていると思う。教育活動においては以前から大切にしている。研究活動においては、科研費の申請率、採択率、件数とも全国高専の中でトップクラスを維持しており高く評価できる。また、地域社会との連携、交流の面においても大いに貢献されている。

【閉 会】

須田校長から、委員に対する謝辞に引き続き、総務課長から閉会宣言があった。

(以上)

5. 資料

1. 石川工業高等専門学校の現況-外部評価のための資料-
2. 石川工業高等専門学校の現況（資料編）
3. 石川工業高等専門学校 研究活動，地域・国際連携関係事項
4. 石川工業高等専門学校運営諮問会議規程
5. 石川工業高等専門学校「学校要覧」（平成 28 年度版）
6. 石川工業高等専門学校「学校案内 2017」リーフレット
7. 石川工業高等専門学校の課題 平成 27 年度 外部評価報告書
8. 「石川高専だより」No. 91, No. 92
9. トライアル研究センター「年報」第 13 号
10. トライアル研究センター ニュースレター Vol. 33, Vol. 34
11. 「灯火」第 121 号，第 122 号，別冊 31
12. 情報処理センター広報 Vol. 12
13. 石川工業高等専門学校評価シート（別途：5 段階評点基準）（委員のみ）

3 外部評価シート

記入要領

評点欄には下の基準による5段階評価の評点をご記入ください。

5: 優れている あるいは 適切である。

4: やや優れている あるいは ほぼ適切である。

3: 普通 あるいは どちらとも言えない。

2: やや劣っている あるいは あまり適切とは言えない。

1: 劣っている あるいは 適切とは言えない。

部	章番号	章タイトル	平成 28 年度		平成 27 年度
			自己評価 平均評定 (5 段階)	委員評価 平均評点 (5 段階)	委員評価 平均評点 (5 段階)
第Ⅰ部 理念・目的		本校の精神			
		沿革 概要及び卒業生			
	1	学校の目的	4.8	4.9	5.0
第Ⅱ部 教育活動	2	教育組織（実施体制）	4.5	4.9	4.9
	3	教員及び教育支援者等	4.6	4.8	4.8
	4	学生の受け入れ	4.8	4.9	4.8
	5	教育の方法および内容	4.5	4.6	4.8
	6	教育の成果	4.5	4.1	4.4
	7	学生支援 学習支援等（7.1～7.4） 進路指導（7.9～7.10）	4.7	4.9	4.8
		学生支援 課外活動・生活指導 ・学生相談等（7.5～7.7）	4.7	4.9	4.9
		学生支援 学生寮（7.8）	4.6	4.9	5.0
	8	施設・設備 共同利用施設	4.0	4.2	4.3
9	教育の質の向上及び改善のための システム	4.6	4.5	4.4	
第Ⅲ部 研究活動	10	研究体制と支援	4.6	4.9	4.8
第Ⅳ部 社会活動	11	地域社会との連携	4.5	4.8	4.9
	12	国際社会との交流	4.7	4.5	4.3
第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営	13	広報活動	4.5	4.4	4.5
	14	評価			
	15	管理運営			

委員のご意見

部	章	記入欄
第Ⅰ部 理念・目的	本校の精神 沿革 概要及び卒業生 第1章 学校の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な理念や目的に沿って運営されていると思われる。 ・精神（こころ）「夢に向かって 磨き 創り 拓く」という素晴らしい標語を設定なされたことは大きな意義があると思います。今後とも議論の原点として浸透を図っていただければと、思います。 ・社会に貢献できる、素晴らしい人材育成をしていただいていることに、感謝しております。 ・学校教育法の基づく教育理念や学習目標が的確に整備されており、学内外への周知および公表が行われている。新しい校長先生のリーダーシップのもとに、さらに充実することを期待したい。 ・全て適切だと思います。
第Ⅱ部 教育活動	第2章 教育組織（実施体制） 第3章 教員及び教育支援者等 第4章 学生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が一丸となって学生の教育から学内外の活動支援まで適切になされている。継続した取り組みには、教職員全員の日々の努力が必要とされることから、息切れしないような工夫も必要であると思われる。 ・本科卒業生の県内就職率アップを期待しています。 ・「教育の成果」：就職率、編入先機関での評価等客観的には、高い成果が確認されていますので、問題の指摘ではありません。「これでよし」はないという意味で低くめに評点させてもらいました。標語解説にありますように、「知性、人間性」を刺激する基礎教養のあり方の深化を期待いたします。特に先端技術分野の変化が激しい昨今において、その基礎となる「科学思想の原点」の素養の醸成による学生の潜在力の刺激が必要となる時代相への目配りが重要性を増しているのではないのでしょうか。教養というと文系教科ということではなく工学系教養という視点もあると愚考いたします。 ・特に学生支援について大変きめ細かく対応していただいていることに、生徒を送り出す中学校として大変安心いたしました。今後も、安心してお任せできると確信して、進路指導を行えると思います。

	<p>第5章 教育の方法および内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実施体制の検討・運営体制が整備されており、一般科目と専門科目の連携および専門科目間の連携が活発に行われており、さらに学級担任制へに支援も充実している。 ・本科の推薦入学の定員増、また「適正検査」の導入など、受験生の負担軽減に取り組んでおり、さらに受験生確保の様々な活動により、試験倍率が2倍を超えたことは特筆される。また専攻科では学力とともに「意欲」重視の入試も評価される。
	<p>第6章 教育の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの充実させ学生の到達目標を明確に示し、さらに主体的な学習を促すために、PBL型授業、in situ教育やアクティブラーニングなどに積極的に取り組んでいる。さらに、情報セキュリティ人材育成事業の拠点校に選ばれ、今後、事業の進展に期待する。
	<p>第7章 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本科卒業および専攻科修了時に達成状況を把握・評価する取り組みが行われており質保証の観点からも評価される。就職および進学の進路状況も好調であるが、専攻科修了生の進学する学生が少ない。優秀な修了生と思われるので、積極的な指導が望まれる。 ・PBL, in situ, インターンなど色々な方式に取り組んでおられるのは素晴らしいです。
	<p>第8章 施設・設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術革新はめまぐるしく、産業構造の変化も加速しております。ドローンやIoT, AIといった新しい技術トレンドがいきなり社会や産業の中核になる事もありますので、臨機応変（という言葉が適切か分かりませんが）に対応して反映して頂ければと思います。 ・職業資格の取得にも積極的な取り組みをされているようですが、取得者数に年度でのバラツキが見られるように感じました。公的資格は是非学生の間に取得できるものは取って、就職後にレベルアップを図って行く事が高度な資格獲得につながると思います。
	<p>第9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p>	<p>また、会議でも発言させて頂きましたが、TOEICのスコアは目標値を上げた方が良くも知れません。</p>
<p>第Ⅲ部 研究活動</p>	<p>第10章 研究体制と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの外部資金、特に科研費獲得のための取り組みが継続されており、その成果がはっきり現れている。今後も継続した取り組みが期待される。 ・コーディネーターの活用は素晴らしいと思います。

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携：技術交流会の運営にも多大なご努力をなさっていることの意義についても今般議論を通じて再認識させていただきました。 ・国際交流：取組の進化、また、その成果の感触も報告されました。学生の意識の変化も確認しながら取り組まれている点、今後の発展が期待できます。 ・指導者の皆様の絶え間ない研究をベースとした教育活動が充実していること大変素晴らしいと感じました。指導者の皆様のモチベーション維持向上は大変なご苦労であろうと推察いたします。 ・科研費は教員が90%以上、技術職員が100%と高い申請率となっていて、さらに採択件数が全国で4位となっている。これは科研費申請の支援、そもそも研究支援体制が整備されていると高く評価できる。また、研究成果の発表も積極的に行われており、これが石川高専の研究が充実している要因と考えられ、この方向でのさらなる進展が期待される。 ・競争的資金の獲得、科研費の申請と採択数、共同研究への取組み、いずれも素晴らしいと感じました。
<p>第IV部 社会活動</p>	<p>第11章 地域社会との連携 第12章 国際社会との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献として企業との共同研究を進めるとともに国際化が求められる中、着実に進められている。大学でも同様な状況にあることから、海外インターンシップ・留学などに関して情報を共有して進められたらよい。 ・津幡町や周辺地域との連携が素晴らしいと思います。その他の地区でも更なる連携のほどよろしく願いいたします。ただ、このことに関しましても、職員の皆様のご労苦を考えると、急激に連携事業を増やすことはできないと思います。 ・公開講座が10数件、出前授業が30件以上など、地域社会との連携に積極的に取り組んでおり、さらに専門性を活かした企業人材育成事業として「自動化技術の啓発と継承」、「生き生き活動する基本を学ぶ」の2つの講座が開設され、受講者からも好評であったようで、このような活動は大きく評価される。 ・全学科学生の海外研修旅行や大学コンソーシアム石川による短期海外留学支援する事業に応募し、数名の学生

		<p>が採用されていることも評価される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な連携，国際交流活動が活発に行われていて素晴らしいと思います。
<p>第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営</p>	<p>第13章 広報活動 第14章 評価 第15章 管理運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生への働きかけ広報は、理科離れが言われるなか、技術系人材の社会的要請からも、素晴らしい取組と感じました。 ・体験入学，オープンカレッジなどのお知らせありがとうございます。中学生は高専がどのようなところなのか大変知りたがっていますので、今後とも中学校への広報活動をよろしく願いいたします。 ・同窓会活動についてもっと知って頂けるよう検討したいと思います。自戒の念を込めて認識をあらためたいと思います。
<p>〔全体についてのご意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校長のリーダーシップの元、適切な運営がなされてその成果が着実に現れている。 ・素晴らしい活動を実施されておりということがありません。 ・日ごろの皆さまのご努力に敬服いたしました。組織の内輪の論理に陥らないための、各種のステークホルダーからのインプット、接点を配置し、運営のチェックと目標の明確化に配慮なさり、高度に運営されていると思いました。 ・運営諮問委員会に参加させていただき心より感謝申し上げます。大変きめ細かく資料を作成いただき、きちんとした外部評価をもとに細部に渡って運営改善を図りながら、学校を運営していらっしゃることに中学生を送り出すものとして大変満足のいく内容でした。今後とも石川工業高等専門学校の益々の発展をご祈念申し上げます。 ・初めての参加で入室した際に先生方がズラっと並んでおられて驚き，緊張というか恐縮致しました。 ・資料とご説明が膨大で追いつくのが大変で，意見や評価にまで十分至らなかったかも知れません。 ・終わりの方に，50周年も過ぎて建物や施設の老朽化の問題が挙げられましたが，これは全国の高専に共通する課題だと思いますので，国の予算処置が必要かと思います。金額によっては50周年の時のように寄付金を検討してみるのもあるかも知れません。 		

Ⅲ 運営諮問会議の意見の要約（講評）

運営諮問会議議長 上杉喜彦

石川工業高等専門学校（以下、石川高専）から、全体の概要説明に続いて、「理念・目的」、「教育活動」等に区分した事項について説明があり、その後、質疑応答・意見交換が行われた。なお、委員からの意見は概ね以下のとおりであった。

1 学校の理念・目的について

明確な理念や目的に沿って学校運営がなされている。

2 教育活動（学生支援等含む）について

生活指導も含め、キメの細かい教育が実施されている等、肯定的な意見が多数あったが、一方で学生が身に付けるべき英語力の目標はもう少し高くすべきではないかとの意見もあった。

また、近年の技術革新はめまぐるしく、産業構造の変化も加速していることから、そのような変化に対応することも必要であるとの意見があった。

3 研究活動について

科研費に代表される競争的資金獲得に向けて努力し、全国高専の中でトップクラスの実績を挙げていることは素晴らしい。また、技術振興交流会の活動から同交流会の会員企業との共同研究等実施に発展していることも評価できる。

4 社会活動（地域社会との連携、国際社旗との交流）について

公開講座、出前授業等により大いに地域に貢献しているが、教員の負担が増えているのではないかと危惧される。

海外教育機関との連携協定を締結するなど国際交流が活発化している。

5 広報・評価・管理運営

校長のリーダーシップのもと適切に運営されている。広報に関しては、理科離れが言われるなか、中学生に積極的に働きかけ大幅な志願者増を実現させるなど、素晴らしい取り組みを行っている。

以上、石川高専の教育、研究、社会活動等については、各委員から肯定的な意見が多く出された。これまでの取組を継続して実施するとともに、今後、更に工夫、改善を図り、発展が遂げられることを期待する。

運営諮問会議開催の公表

・石川工業高等専門学校ホームページ

平成28年度運営諮問会議を開催

3月3日（金）に運営諮問会議を開催しました。この会議は、石川高専の教育活動、研究活動、社会活動等について、学外有識者による評価と提言をいただき、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としています。

当日、同会議には、大学、中学校、地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員19名が出席し、はじめに須田義昭校長が挨拶を行った後、議長に金沢大学大学院自然科学研究科長の上杉喜彦氏が選出されました。

議事に入り、須田校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献、国際交流等について各担当者から説明があり、その後、質疑・意見交換が活発に行われました。委員からは多くの意見や提言があり、最後に上杉議長から、全体の講評が行われました。

本校では今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の教育研究活動の充実につなげていくこととしています。



会議風景



議長の上杉研究科長
(金沢大学自然科学研究科)

・刊行物

文教ニュース 2017年3月20日

■石川高専■
平成28年度運営諮問会議

石川高専は3月3日、運営諮問会議を開催した。同会議には、大学、中学校、地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員19名が出席し、議長に金沢大学大学院自然科学研究科長の上杉喜彦氏が選出された。委員からは多くの意見や提言があり、最後に上杉議長から、全体の講評が行われた。同校では提言を活かして一層の運営改善、教育研究活動の充実につなげていくこととしている。



議長の上杉金沢大研究科長

文教速報 2017年3月17日

石川高専で運営諮問会議

石川高専では、3月3日に運営諮問会議を開催した。写真。石川高専の教育活動、研究活動、社会活動などについて、学外有識者による評価と提言を得て、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としている。

会議には、大学、中学校、地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員19名が出席、須田義昭校長の挨拶後、議長に金沢大学大学院自然科学研究科長の上杉喜彦氏が選出された。議事に入り、須田校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献、国際交流などについて各担当者が説明。さらに質疑・意見交換が活発に実施された。委員からは多くの意見や提言があり、最後に上杉議長から全体の講評が行われた。

同校では、今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の教育研究活動の充実につなげていくこととしている。



おわりに

本校は平成 27 年度に創立 50 周年を迎え、その記念事業の中で 50 年の歴史を改めて振り返ってみた。技術系の高等教育機関として 8000 近い卒業生を輩出し、日本の発展に寄与してきたことに誇りを感じるとともに、その責任の重さを痛感したのである。平成 28 年度は新しい校長先生をお迎えして、襟を正し次の一步を踏み出す年となった。本校の外部評価として重要な役割を持つ運営諮問会議においては、平成 28 年度の本校の状況について説明申し上げ、委員の皆様の忌憚のないご意見をうかがうとともに、貴重なご提言をいただいた。

人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型の技術者を育成していくという本校の教育理念に変わりはない。さらに 50 周年の高専教育の碑に刻まれた「夢に向かって、磨き、創り、拓く」を新たな合言葉として、教育研究活動を推進していくことを委員各位にご理解いただいた。

教育活動については、学生の自主的な学びを促す取り組みについて説明申し上げた。本年度に実施された JABEE 審査においては、審査委員から様々お褒めの言葉を頂戴し、結果として 6 年の継続認定となった。さらに、ラーニングコモンズ、アクティブラーニング教室などの環境整備を行うとともに、留年、退学への対策や学習支援体制の充実に引き続き務めていく。委員からは教育の成果についていささか厳しいご意見をいただいた。すなわち、技術系の教育だけでなく、「知性、人間性」を高める教養教育に一層力を入れるべきとのご意見である。また、本科、専攻科ともさらに上位の学校への進学に対する意欲を高める必要があるとのご意見もいただいた。50 年の成果に甘んずることなく、気を引き締めて教育してほしいという叱咤激励と受け止めたい。

平成 28 年度の学生の活躍については、新たな一步にふさわしい輝かしいものとなった。北陸高専体育大会 11 連覇はもとより、全国高専体育大会においても野球やテニスの優勝などがあつた。体育系だけでなく、デザコンにおいても 2 つの最優秀表彰を獲得した。これらの学生の全国レベルの活躍は学生教職員士気を高め、学校全体として非常に喜ばしい出来事であつた。このことに関しては委員からも大きな称賛をいただいた。

国際化の取組みは最近になって加速している。本校の多くの卒業生が活躍する地元企業であっても海外進出が避けられない状況である。そのような企業からは海外進出に対応できる人材育成が求められており、本校も様々な取組みを行っている。4 年生全員参加の海外研修旅行は、学生に海外、特にアジア諸国に対する理解を深める良い機会となっており、トビタテ留学 JAPAN などの海外留学や海外インターンシップを希望する学生が増加している。このことに対しても委員から評価をいただいたが、その基礎となる英語をはじめとする語学力のさらなる向上についての提言をいただいた。

教員、技術職員の研究活動については、本校の高い活動レベルを保つとともに、近年の技術革新に対応すべく、学科を超えた学際的な領域にも挑戦すべきとのご意見をいただいた。また、地域企業との共同研究や研修などの活動についてもさらに進めてほしいとのご希望もいただいた。

少子化の中にあつてわが国の産業を支える人材の確保するために、本校を希望する意識の

高い中学生を増やすことが必要である。第1に、在校生に対するきめ細かい指導、支援、良好な就職、進学が中学校へのアピールや信頼につながる。さらに、1日体験入学や公開講座など多くの中学生、小学生やその保護者に本校を見ていただけるような取り組みを行っている。これらの成果として入試倍率は2倍を超えた。しかしながら、高専という教育機関の存在がいまだ希薄であるというご指摘もあり、広報活動の一層の充実に努めたい。

50年というのはほぼ施設設備の耐用年数に近く、本校の施設設備の老朽化対策は大きな課題となっている。これらの老朽化は研究教育活動の停滞だけでなく、安全性の面からも放置できない。委員からもそのような懸念が表明された。財政的な問題が大きく、一朝一夕に解決できることではないが、キャンパスの将来を見据えて長期的に取り組んでまいりたい。国からの予算を待つばかりでなく、寄付などの積極的な取り組みも必要とのご意見をいただいた。

諮問委員の方々からは、本校が教育研究において良い成果を挙げているという高い評価をいただいた。しかしながら、高いレベルの成果を持続することは簡単ではない。委員の方々からも教職員の過剰な負担についての心配の声があった。もとより、学生のみならず教職員の行き過ぎた活動のみで事が成るわけではなく、持続可能な教育研究活動を行っていくために、方法や組織の不断の見直しが必要であり、その際には外部からの客観的な評価や激励がなによりの助けになる。本年度もお褒めの言葉とともに、厳しいご意見や貴重なご提言をいただいた、これらを真摯に受け止め、来る100年に向かって地道かつ堅実に進んでまいりたい。

最後になりますが、年度末のご多用な折、多大なご尽力をいただいた運営諮問委員各位に対し、深甚の謝意を表します。また、自己点検報告をまとめた本校の総合企画会議、点検評価委員会の委員各位、報告書・資料集の取りまとめおよび作成にあたった総務課の皆さんにお礼を申し上げます。

平成29年3月29日

副校長（管理運営担当） 西澤 辰男



平成 28 年度
石川工業高等専門学校の課題
外部評価報告書

発行 平成 29 年 月
編集 総合企画会議
発行者 石川工業高等専門学校
〒929-0392 石川県河北郡津幡町北中条
TEL 076-288-8000
FAX 076-288-8014
URL <http://www.ishikawa-nct.ac.jp/>



独立行政法人国立高等専門学校機構

石川工業高等専門学校

National Institute of Technology, Ishikawa College